

# 1 単元名 台風と天気の変化 (第5学年)

## 2 研究の視点

問題解決の力	調査結果を吟味し、より妥当な考えをつくりだす。	
本時で目指す児童像	場面	日本に近づく台風の進路を複数記録し、一般化する場面。
	姿	日本に近づく台風の進路を複数記録し、また、他の班の調査結果も取り入れながら日本に近づく台風の大まかな特徴について考察する姿。
手立て	iPad を活用し、日本に近づく台風の進路をパウチシートに記録する。そしてその調査結果をもとに日本に近づく台風の進路の大まかなきまりを話し合い、発表する。	

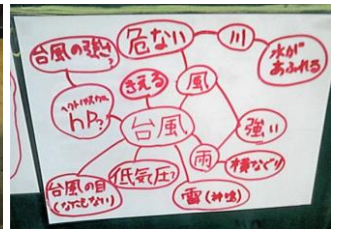
## 3 本時の学習指導

### (1) 目標

〔自然事象についての知識・理解〕 日本に近づく台風の進路について、デジタルコンテンツを利用してその大まかなきまりを理解することができる。

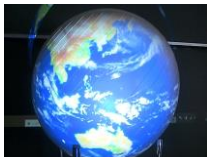

### (2) 前時までの活動

- ①台風について知っていることをイメージマップに記入。
- ②台風とは何か、及びペットボトルと線香を使っての雲のでき方の実験。
- ③台風情報の収集の方法並びにインターネットなどでの情報収集。



### (3) 展開

### 研究の手立て

学習活動	・児童の反応と◆教師の支援	○留意点〔 〕 評価の観点	時間
1 前時の学習を振り返る。	T1 台風についてどんなことを学習しましたか？ ・台風は積乱雲が集まったもの。 ・雲は水蒸気が冷えて水や氷の粒になったもの。 ・台風は世界中で発生している。	○デジタル台風コンテンツをプロジェクター  でバランスボールを投影し、関心を高める。	5
2 問題を見い出し、予想を立てる。	T2 日本にやって来る台風の進み方にきまりはあるのかな？  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">日本の近くに来る台風の進み方にきまりはあるか</div> ・あると思う (北海道の方にすべて移動した気がする…) ・ないと思う (ニュースで見たら、バラバラの動きだったような…)	○一人一人予想を立てさせるため個々のマグネットシートを黒板に貼り、自分の立場を明確にし、共有させる。 	10
	T3 「デジタル台風」コンテンツを使って、		

3 デジタルコンテンツを用いて、台風の進路について調べる。

日本付近に近づく台風を調べましょう。



- ・「雲画像」データで台風の動き方を調べてみよう。
- ・年月を入力して、日本に近づいた台風の動きを調べてみよう。

◆前時に「デジタル台風」コンテンツを紹介し、内容や操作方法をある程度習熟させておくと混乱が少ない。また、コンテンツ画面と同じプリントを配付し、探しやすいようにする。



○iPadは1班2台。話し合いを充実させ、グループ内で内容の正誤を吟味させる。



4 調べた結果を、日本地図をパウチしたシートに記入する。

T4 日本に近づいた台風の進路をパウチシートに記入しましょう。





- ・〇年〇月の台風は日本に近づいた。記録しよう。
- ・僕の生まれた年には台風が日本にやってきたのかな？調べてみたい。



○予め赤道の赤線は引いておく

○パウチシートには、台風の進路の他、発生年月も記入し、データの信憑性を高める。

○少なくとも3つ以上の台風進路データを記入するよう指導する。

<p>5 調べた結果を吟味し、発表する。</p>	<p>T5 日本に近づいた台風の進路について何かきまりはありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台風は赤道付近の南の海上で発生している。</li> <li>・その後、北上して日本に近づいてくる。</li> <li>・沖縄県あたりに来ると、北東や、北、東の方に動くものが多い。</li> </ul>	<p>10 ○グループで台風の進路の特徴を話し合うが、意見が食い違う場合や不確かな時は他の班の意見を聞いてもよいことを伝えておく。</p>
		
<p>・台風は日本のはるか南の海上で発生し、少しずつ成長しながら日本に近づいてくる。</p> <p>・日本近くに来ると、北東や東、または北に動くものが多い。</p>		<p>〔知識・理解〕日本に近づく台風の進路について、デジタルコンテンツを利用してその大まかなきまりを理解することができる。</p>

#### 4 指導の実際

<手立てについて>

iPad は班で2台にした（1班4～5名構成）。理由は調べるためのツールをあえて少なくすることで台風情報を皆で共有しやすい状態にするためである。日本地図をパウチしたシートに複数の台風の進路を記録する際にも、話し合い活動を充実させるために1班でiPad2台が限度だと思う。（写真1）。

考察の段階で、台風の進み方のきまりについて意見交換を行った。台風が赤道近くの南の海の海上で発生するという考え方はおおむね納得していた。しかし、ある班は、台風の進路にきまりは「ない」と結論づけた（写真2）。これは、台風が沖縄県に到達するまで偏東風の影響を受けるものの、その後は偏西風や高気圧・低気圧などの様々な条件により、台風の進路が定まっていないと見たからではないだろうか。そのため、考察の際は児童とやり取りをしながら、台風は、まず、①南の海で生まれる、次に②北や西に動く、そして③日本に来ると北や東に動く、とまとめた（写真3）。

以上のことから、台風の進路を厳密にとらえるか、大まかにとらえるかで児童の見方や考え方が変わってくる。教師は何をどこまで児童にとらえさせればよしとするのか、単元のねらいやゴールを明確に定めておく必要がある。

（戸田市立戸田第二小学校 鈴木 圭）



写真1



写真2

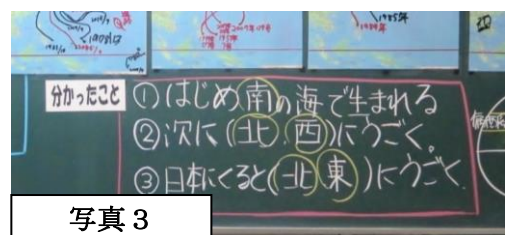


写真3